

研究室名
16-3-4 生物有機化学研究室
最近の研究課題とその取り組みの概要
<p>生物有機化学研究室では、蛍光プローブと呼ばれる、生体内の特定の分子と反応して、その存在を可視化する有機小分子を開発している。開発した蛍光プローブを用いて、細胞が酸化ストレスを受けた際に発するシグナル分子を捕捉することで、外的あるいは内的要因により損傷を受けた細胞が見せる挙動の解明を行なっている。</p> <p>また、生細胞に物理的刺激を加えることのできる有機小分子を開発し、それらが細胞に及ぼす影響を調べている。開発された、有機小分子は、細胞内への薬物の導入と細胞外への排出に影響を与える得る新しい因子となることを期待している。</p>
キーワード：ミトコンドリア・蛍光プローブ・アゾ化合物・酸化ストレス・細胞膜
研究室の構成員
塙路幸生（准教授）・博士（理学） 岩下秀文（助教）・博士（理学）
2024年度の大学院生および卒論生の人数と研究テーマ
M2：1名、M1：1名、4年次生：5名
細胞内の酸化還元状態を可視化する蛍光プローブの合成 細胞形質膜中の脂質過酸化を可視化するレシオ型蛍光プローブの開発 ローダミンBを有するアゾベンゼン誘導体の光異性化により誘起されるベシクルの形態変化 ミトコンドリアに局在化する可視光応答性アゾベンゼン誘導体の合成とその機能評価 蛍光色素をミトコンドリアに固定化する官能基の検討 リン脂質と親和性をもつ光増感分子の合成と脂質酸化の検討 スルホ基を有する蛍光プローブの細胞膜透過性の検討
教員の担当科目
塙路幸生：（学部）有機化学A、基礎有機化学II、基礎有機化学実験、有機生物化学実験 （大学院）化学講究、有機生物化学実験、有機化学特論III、修士論文 岩下秀文：（学部）基礎化学演習、化学実験、基礎有機化学実験、有機生物化学実験
教員の所属学会
塙路幸生：日本化学会、有機合成化学協会 岩下秀文：日本化学会
最近5年間の学術論文
<p><u>H. Iwashita*</u>, R. Tokunaga, <u>K. Shioji</u>, “Visualization of Ferroptosis-Induced Lipid Peroxidation Using Plasma Membrane-Specific Fluorescent Probe LipoxPM”, <i>Chem. Eur. J.</i> 2025, e202404323, 2025年2月（査読有）</p> <p>H. Sakurai, *<u>H. Iwashita*</u>, S. Arakawa, A. Yikeramu, M. Kusaba, S. Kofuji, H. Nishina, M. Ishiyama, Y. Ueno, S. Shimizu, “Development of small fluorescent probes for the analysis of autophagy</p>

kinetics“, <i>iScience</i> 2023, 26, 107218, 2023 年 7 月(査読有)
K. Shioji, M. Ozaki, K. Kasai, H. Iwashita, N. Nagahora, K. Okuma, Development and Photo-properties and Intracellular Behavior of Visible Light Responsive Molecule Localizing to Organelles of Living Cell. <i>Chemical Papers</i> , 2023, 77, 3025-3034, 2023 年 2 月(査読有)
Y. Kato, K. Yoshida1, Y. Ohba, I. Fujimoto, Y. Imahara, S. Nakachi, K. Nakashima <u>K. Shioji</u> , and T. Yamaguchi, Different Properties of Two Types of Red Fluorescent Proteins in Octocoral, <i>Scleronephthya</i> spp. as Akane Families. <i>Luminescence</i> , 2022;1-9, 2022 年 10 月 (査読有)
K. Kasai, N. Nagahora, K. Okuma, K. Matsubara, <u>K. Shioji</u> , Photo-induced Morphological Changes of Lipid Bilayer Vesicles Enabled by a Visible-Light-Responsive Azo Compound, <i>J. Oleo Sci.</i> 71, (5) 747-757 (2022). 2022 年 5 月 (査読有)
N. Nagahora, R. Tanaka, T. Tada, A. Yasuda, Y. Yamada, <u>K. Shioji</u> and K. Okuma Thiopyrylium Scaffolds from the Lewis/Brønsted-Acid-Promoted Cyclization of Thioethers, <i>Org. Lett.</i> 2020, 22, 15, 6192–6196, 2020 年 7 月(査読有)
N. Nagahora, K. Kitahara, Y. Mizuhata, N. Tokitoh, <u>K. Shioji</u> , and K. Okuma Synthesis and Properties of Thiophene-Fused Thiopyrylium Salts, <i>J. Org. Chem.</i> 2020, 85, 12, 7748–7756, 2020 年 3 月(査読有)
最近 5 年間の学術著書
該当なし
最近 5 年間の学術国際会議での発表
該当なし
最近 5 年間の代表者としての学外資金導入実績
該当なし
最近 5 年間の代表者としての学内資金導入実績
塩路幸生：領域別重点研究「脂質集積体中の分子動態解析」100 万円、2024 年度、(分担者：勝本 之晶)
最近 5 年間の学会等学術団体における役職など
該当なし
最近 5 年間の一般向け論文と著書、行政報告書など
該当なし
最近 5 年間の一般（非学術）集会での発表論文
該当なし
最近 5 年間の学術団体以外の団体での啓蒙活動や社会貢献活動とその役職など
該当なし
その他特筆事項
該当なし